

平成 30 年度 ビーチバレーボールルール取り扱いについて

1 サービスの許可に関する事項

規則 12 サービス (SERVICE)

規則 12.3 サービスの許可 (AUTHORIZATION OF THE SERVICE)

主審は、サーバーがエンドライン後方でボールを保持し、両チームがプレーする用意ができていることを確認した後、サービスを許可する。

(注)

- 1 ラリー間を一定に保ち、常にラリー終了 12 秒以内にサービス許可のホイッスルができるように、選手の遅延をコントロールするとともに、ラインや砂の状態、またはボールリトリバーのボール回しの状況を確認することが重要である。
- 2 ラリー終了 12 秒後に、サーバーがボールを保持していれば、主審はサービス許可のホイッスルをしてよい。サーバーが準備できているかどうか確認する必要はない。ただし、レシービングチームが次のプレーの準備ができていない場合は、サービス許可のホイッスルをしてはならない。まず、遅延なく準備をするよう促すべきである。ラリー終了後、レシービングチームの準備が 12 秒よりも早い場合は、サーバーがボールを保持していてもサーバーの準備を待つことができる。また、すべての選手が準備できていれば、12 秒より前にホイッスルしてもよい。
- 3 ラリー終了後、サーバーが速やかにサービスゾーンに移動しない場合や、ボールリトリバーからボールを受け取らない場合、また、ボールを保持した状態でサービスゾーンを平らに直す行為等は、遅延行為として注意を与えなければならない。

2 不当な要求に関する事項

規則 15 中断 (INTERRUPTIONS)

規則 15.5 不当な要求 (IMPROPER REQUESTS)

15.5.2 要求する権利のないチームメンバーが要求すること。

15.5.4 試合に影響を与えず、試合の遅延行為にならない不当な要求は、同じ試合で繰り返さなければ、罰せられることなく拒否される。(規則 15.5, 16.1)

(注)

- 1 キャプテンではない選手がタイムアウトを要求したすぐ後 (同じラリー間)、続いてキャプテンがタイムアウトを要求した場合 (キャプテンが要求せずにそのままタイムアウトとしてベンチに戻ろうとしているときは、審判員からキャプテンにハンドシグナルを出すよう指示してよい)、タイムアウトの要求は許可される。キャプテンではない選手が要求したタイムアウトにキャプテンが同意せずコートに残っている場合等は、不当な要求とみなし、記録用紙に記録する。
(記入例) 「第 1 セット チーム A 3 : 7 不当な要求」
- 2 それまでにチームが遅延の罰則を受けていても、不当な要求がチームの最初のものであれば、拒否される。その際、ラリー終了後に不当な要求として記録用紙に記録する。

3 試合の遅延に関する事項

規則 16 試合の遅延 (GAME DELAYS)

規則 16.1 遅延行為の種類 (TYPES OF DELAYS)

試合の再開を引き延ばすようなチームの不当な行動は、遅延行為である。主なものは以下のとおり：

16.1.1 試合を再開するよう指示された後、中断をさらに引き延ばすこと。

16.1.3 試合を遅らせること (通常の試合の状況下で、ラリー終了から次のサービスのホイッスルまでは、最大限 12 秒間である)。

16.1.4 チームメンバーが試合を遅らせること。

(注)

- 1 選手が、サングラスを拭いたり砂をならしたりする場合、ラリー終了後、直ちに行わなければならない。一度次のポジションに着いた後に行うことは遅延となる。また、2つ以上の中断行為 (サングラスを拭いた後、ラインや砂を直す等) も遅延となる。
- 2 TO及びTTOの終了後、コートへ戻る行為が遅い場合、またコートへ戻った後プレーを再開する前に線審のタオルでサングラスを拭いたりする場合も遅延行為となる。
- 3 選手の自然なリアクションか、判定をごまかす行動か、または遅延行為か、等を見極める。
ライン際のボールインのボールマークを消すリアクションは、判定をごまかす行動だけではないことを理解しなければならない。選手がラインに触れてはならない、というルールはない。
審判団は、選手がラインを直すことを要求することがないように、ラリー終了後速やかにラインや砂を直すことを優先し、特に主・副審は毎ラリー終了後にその状態を確認する必要がある。
- 4 審判員による遅延をしないよう、コートスイッチのホイッスルのタイミングが遅れることや、タイムアウトの要求を見逃すことのないよう、ゲームの流れを把握する。
- 5 副審は、ボールデッド時にまずサーバーの確認、スコアラーの任務の確認を速やかに行い、その後、ラインや砂を確認すること。競技中断中にできることは全て行う。次の準備を怠らない。

4 公式記録記入法に関する事項

2 トスの後に

2.2 副審から

- a) 最初にサービスをするチーム
- b) それぞれのチームの試合開始時のコートサイド

(注)

- 1 トスに勝ったチームが選択をした後、もう一つのチームが選択を終え、両キャプテンが記録用紙にサインをし終えるまで、スコアラーには伝えない。
- 2 両キャプテンがサインをしている間に、主審・副審でトスの結果を復唱し、間違いがないか確認する。
- 3 両キャプテンが記録用紙にサインをし終えたら、副審がスコアラーにトスの結果を伝える。
- 4 公式練習が終了する前に、スコアラーがトスの結果とサービス順を正しく記入しているか、審判員がスコアシートを確認する。
- 5 試合終了後、マッチプロトコルにしたがって審判台前からスコアラーステーブル前に戻る際、キャプテンがサインし終わるまではスコアラーステーブルのそばに近寄らず、一定の距離をあけて待つ。必要であれば、審判員がベンチに近寄ってキャプテンに声をかけてよいが、サインをするよう強要すべきではない。

5 競技参加者の行為に関する事項

規則 19 行為の条件 (REQUIREMENTS OF CONDUCT)

規則 19.1 スポーツマンにふさわしい行為

- 19.1.1 競技参加者は、公式ビーチバレーボール規則に通じていなければならない。また、それを忠実に守らなければならない。
- 19.1.2 競技参加者は、審判員の決定に対し、スポーツマンらしく反論せず、受け入れなければならない。疑問がある場合には、ゲームキャプテンを通してのみ説明を求めることができる。
- 19.1.3 競技参加者は、審判員の決定に影響を与えたり、またはチームの反則を隠したりする行動や態度は避けなければならない。

規則 19.2 フェアプレー

- 19.2.1 競技参加者は、審判員だけでなく、他の役員、相手チーム、チームメイト、さらに観衆に対しても、フェアプレーの精神で敬意を示し、礼儀正しく行動しなければならない。

規則 20 不法な行為とその罰則 (MISCONDUCT AND ITS SANCTIONS)

規則 20.1 軽度の不法な行為 (MINOR MISCONDUCT)

軽度の不法な行為は、罰則の対象にはならない。主審には、チームが罰則のレベルに達しないように防ぐ義務がある。これは2段階で処置される。

ステージ1：ゲームキャプテンを通じて口頭での警告をする。

ステージ2：該当する選手にイエローカードを使用して警告をし、これ自体は罰則の適用ではないが、その試合においてそのチームメンバーが（さらにチームが）次からは罰則になることを示している。これは記録用紙に記録されるが、直ちに罰則を受けることはない。

規則 20.3 罰則の段階 (SANCTION SCALE)

主審の判断で、不法な行為の程度により、以下の罰則を適用し、記録用紙に記録する：ペナルティ、退場または失格。

- 20.3.1 ペナルティ：同じ選手が同一セットで無作法な行為や無作法な行為を1度繰り返した場合。いずれの場合にも、そのチームは相手チームに1点とサービスを与える罰則を適用する。同一セットで選手による3回目の無作法な行為は、退場の罰則を適用する。しかし、無作法な行為は、続くセットでは同じ選手に与えられる。
- 20.3.2 退場：最初の侮辱的な行為は、退場の罰則が適用される。退場を受けた選手は、競技エリアを離れなければならない。チームは、そのセットで不完全を宣告される。
- 20.3.3 失格：最初の身体的攻撃、威嚇的、脅迫的な攻撃は失格の罰則が適用される。その選手は競技エリアを離れなければならない。チームはその試合で不完全を宣告される。不法な行為は罰則段階表に示されたように罰則を適用する

(注)

- 1 競技参加者（競技者・スタッフ）が、規則19に反した場合や、審判員の判定に対して執拗に抗議するような態度をとった場合は、規則20にしたがって警告が与えられる。また、繰り返した場合は、反則が与えられる。
- 2 プレーイングエリア内で「ガム」を噛んだりすることは許されない。

6 コーチングについて

付録(1) 国内の大会に適用される 特別競技規則 追加事項

*付則の1 【監督に関する規定】

- 4 国民体育大会を除き、監督は複数のチームに登録することができる。ただし、試合の間（すなわちマッチプロトコールから試合終了のホイッスルまで）は、1チームのみにとどまらなければならない。
- 5 ベンチ入りする監督は、次の権限を持ち、また義務を負う。
 - (1) 試合開始前、記録用紙の監督サイン欄に署名して、試合中の位置を確認し、規律に従わなければならない。したがって、監督はチーム構成員の一員である。
 - (2) 監督は、マッチプロトコール時（コイントス時）までに競技エリアにいなければならない。それ以降は試合が終了するまで競技コントロールエリアに入ることとはできない。また、監督が試合の途中で競技エリアを離れた場合、試合が終了するまで再び競技エリアに戻ることはできない。
 - (3) 監督は、マッチプロトコール開始前は、コートでのウォームアップに参加することができる。また、国民体育大会およびビーチバレー男女ジュニア選手権大会・大学選手権大会においては、公式ウォームアップにも参加することができる。
 - (4) 監督は、試合中、指定されたチームの座席エリアに座る。しかし、指示または声援を送ることはできない。競技エリアの外からのコーチングは認められない。この場合、競技委員長に通告され、退場処分となる場合もある。
 - (5) 監督は、試合中、次の場合に限ってチームベンチにおいてチームメンバーに指示することができるが、これ以外の権限は有しない。
 - ①タイムアウト時 ②テクニカルタイムアウト時 ③インターバル時
 - (6) 国民体育大会およびビーチバレー男女ジュニア選手権大会・大学選手権大会においては、監督は、(5)の他、ラリー終了後次のサービス許可のホイッスルまでの間に選手に指示することができるが、コートスイッチのときを除いて、座ったままでいなければならない。

チームサイドがコートスイッチにより入れ替わる際には、監督もその都度ベンチを移動しなければならない。コートスイッチ中（立ち止まらず、歩いている間）に試合を遅延させなければ、選手に指示を出してもよい。
 - (7) 国民体育大会およびビーチバレー男女ジュニア選手権大会・大学選手権大会においては、監督はアウトオブプレー時、および主審のサービス許可のホイッスルの前に、チームキャプテンと同様に公式ハンドシグナルを示し、「タイムアウト」を要求することによって、タイムアウトを要求することができる。
 - (8) 監督は、試合中、通信機器の利用を含め外部の者と接触してはならない。
 - (9) 監督は、チームメンバーであり、試合の遅延行為は規則 16 が適用される。選手が、この特定の規則に違反して、監督の指示を受けるために試合を遅らせていると判断された場合、チームは遅延行為の罰則が適用される。その際、公式記録用紙の遅延行為欄に記載する。
 - (10) 監督に関する規定に反した場合を含む不法な行為には、監督を含むすべてのチームメンバーに規則 20 が適用される。セットの前または間に発生した不法な行為に対する罰則は、次のセットで適用される。
 - ① 軽度の不法な行為（規則 20.1）

これは、キャプテンを通じて、問題のあるチームメンバーやチームに警告がなされる。監督はチームの一員としてみなされるため、監督にも適用される。キャプテンは、監督に通知するよう要求される。

主審はイエローカードを監督に示し、監督は警告を受けたことを確認するために立ち上がり拳手し

なければならない。

この警告自体は罰則の適用ではないが、次からは罰則になることを示している。これは直ちに罰則を受けることはないが、記録用紙に記録される。

監督の行動によって、チームに警告が適用された場合、以下の略記号を使用して記録用紙の備考欄に記録される。(記入例…A/2/監/12:9 <チーム/セット/監督/得点>)

② 退場(規則 20.3.2)

退場を受けた監督は、そのセットに介入する権利を失い、次のセットまで競技エリアを離れなければならない。

③ 失格(規則 20.3.3)

失格を受けた監督は、その試合に介入する権利を失い、競技エリアを離れなければならない。

退場または攻撃的行為等による失格は、以前の罰則を必要としない。その際、公式記録用紙の備考欄に不法な行為の内容を記載する。

(11) メディカルタイムアウトの間は、選手だけが競技エリアでウォームアップすることができる。

この間、監督は、立ち上がって選手に指示を出しても良い。

(12) 監督は、試合の開始時ならびに試合の間は、不可抗力(病気、負傷、トイレ)の場合を除き、チームと一緒にいなければならない。監督が治療やトイレに行く場合は、審判委員長か競技委員長、またはリザーブレフェリーが同行する。

(注)

- 1 両審判員は、監督が規定通りに行っているか、また、ラリー中に立ち上がったり、指示や声援をしたりしていないか、注視しなければならない。
- 2 国民体育大会およびビーチバレー男女ジュニア選手権大会、大学選手権大会の場合は、上記に加えて以下についても確認しなければならない。
 - ① ラリー終了後次のサービス許可のホイッスルまでの間に、立ち上がって指示していないか。
 - ② チームのコートスイッチによりベンチを移動する際、指示することで遅延をしていないか、積極的にコントロールしなければならない。
 - ③ 猛暑の際に給水措置が取られる場合は、ベンチ移動の際に、監督が選手に飲み物を手渡しても良いが、遅延をした場合には遅延の罰則が適用される。
 - ④ 監督がタイムアウトを要求するときに、ハンドシグナルに加えて口頭で要求してもらうよう監督が試合前のサインをする際に、協力を要請する。(口頭だけの要求は許可されない。)
- 3 ベンチ入りしない監督やコーチ等によるコート外からのコーチングが疑わしい場合は、審判員は審判委員長および競技委員長をコートサイドに呼んで報告する。

※この場合の処置はチームに関係なく個人に対してのものであり罰則とはならない。

しかしコーチングを受けたチームに対し審判員は口頭で注意を行う。(これは罰則ではない)

7 服装に関する事項

規則 4 チーム (TEAMS)

規則 4.4 服装の変更 (CHANGE OF EQUIPMENT)

4.4.3 主審は、選手の要求があれば、選手がアンダーシャツおよびトレーニングパンツで試合することを許可してもよい。

規則 4.5 禁止される物 (FORBIDDEN OBJECTS)

4.5.3 圧迫用サポーター (パッド入りの負傷部を保護する装具) は、保護やサポートのために着用することができる。

*付則の2

圧迫用サポーター (コンプレッションパッド) の色は、黒、白、肌色、ユニフォームの色のいずれかとし、それ以外の色は着用できない。

また審判員は、マッチプロトコール前に、下記の表にしたがった診断書提出の有無を、競技委員長または審判委員長に確認しなければならない。提出が無い場合、着用は許可されない。

一人または二人の選手が	片腕もしくは片脚に着用	診断書の提出が必要
一人の選手が	両腕もしくは両脚に着用	診断書の提出が必要
二人の選手が	両腕もしくは両脚に着用	<u>診断書の提出は不要</u> ユニフォームとして同じ色・長さの物を着用

(注)

コンプレッションパッド、コールドギア等にマニファクチャラーロゴ以外のロゴ、色等がある場合は、競技委員長または審判委員長に確認しなければならない。